



# うつる庭

日本の庭園は、時間とともに変化する「移ろい」を大切にしています。枯山水は水を使わずに波紋を描き、雨の日には本物の水がその形をなぞる美しさ、苔庭は湿度や季節に応じて表情を変える美しさがあります。その美しさは、目に見える美しさだけでなく時間や音や感情の中の繊細な美しさを感じ取る、日本ならではの感性があると考えました。

たとえば、雨の日だけに音を立てながら現れる一時的な池と水が溜まることで静かに姿を消す石たち。晴れの日にはその形を現し、雨が降るたびに異なる景色を映し出す。訪れる人が来る時間や季節天気などにより感情が変わっていくと考えました。

水は時間が経つにつれ地面に染み込み、地下へと浸透していきます。その水は時間をかけてまた地上へと湧き出して地下に蓄えられた水が苔や草木を育てて行き庭の表情を変えていきます。水が沈み、また湧き出してくる。その循環の中で姿形を変え訪れる人に日本ならではの感性を伝えていく庭。それが私たちの新しい和の表現です。

